

家庭用消火器の使い方

皆さんの家には家庭用消火器はありますか？火災発生の時、まず頼りになるのが消火器。万一の保険として、家庭用消火器の1本は備えておきたいですね。今回は家庭用消火器の使い方のお勉強です。

使い方 いざ炎を見ると慌ててしまい頭の中は真っ白、それが普通ですね。消火器の使用手順は、消火訓練に何度も参加して体で覚えておきましょう。使い方は簡単。①火事になったら大声で「火事だー！！」と叫ぶ②消火器を持ってきて安全ピンを抜く③ホースをはずし、火元に向けレバーを握り放射する、の3点です。ポイントは①で、一人だけで消火しようとせず周囲の人に火災を知らせて、消防への連絡や、消火に協力してもらうことが肝要です。自宅の消火器で足りない時は、街頭消火器（町内41本設置）も躊躇せずにガンガン使うこと（無料です）。またレバーが硬くて握れない時は、足元に置いて肘を伸ばし体重をかけてレバーを押す、なども覚えておけば役に立つ知識です。

消火器の選び方 火災には普通、油、電気火災の三種類あり、それぞれ消火器に白、黄、青マークで対応できる火災が表示されています。火災発生時にはどの火災か判断する余裕はないと思われるので、三つのマークがついている消火器を購入すべきです。また、消火器の重さも重要で、女性や老人で重すぎて運べない、扱えない、などが無いよう配慮が必要です。

消火器の種類と火災のケース別留意点

	粉末消火器	強化液消火器	泡消火器
総重量	3～6kg	5～10kg	7～12kg
放射時間	10～15秒	20～40秒	30～55秒
距離	3～6m	5～11m	5～9m
対応火災	すべてOK	すべてOK	電気はダメ
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 放射時間短い 浸透性なし（再燃） 一瞬で火を消せる 	<ul style="list-style-type: none"> 放射時間長い 浸透性あり（木材） 	<ul style="list-style-type: none"> 放射時間最長 泡でおおう 5°以下使用不可



てんぷら油:一旦消火しても油面を覆っている消火薬剤が沸騰すると、油が空気に触れ再発火するので、①消火液の放射圧により油面をかきまぜない②消火したらなべの蓋などで空気を遮断、などの対応が必要。**灯油ストーブ:**耐震消火装置つきなら倒れても火災にはならないので、慌てず引き起こすこと。慌てるとまた倒して火災を大きくします。**耐火・防火造りの室内:**①熱気などで室内に入れない場合は、人がいないことを確認し窓、出入口などの開口部を閉める②出入口などの隙間から消火薬剤を放射する③消防が到着するまで扉を開けない、などに留意願います。

消火器の点検と廃棄 この機会に是非、ご家庭の消火器の種類や有効期限（消火器側面に表示。右上写真参照）をご確認ください。また、有効期限の過ぎた消火器は燃えないゴミには出せません。町会が定期的に回覧で廃棄・交換の希望をお尋ねしますので、その際に申込みをお願いいたします。

減災ニュースに関するご要望、お問い合わせ 松尾 5932-0083

